

手をつなごう2008

平成21年2月9日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 24

支援部講座 / リライト教材を勉強しよう②



2月2日に第2回目を実施しました。今回はグループに分かれて実際にリライトをしてみる演習を中心に行いました。題材は小学校2年生の教材「お手紙」を使いました。

光元先生がまず強調されたのは個別の学習目標の設定でした。どういう実態の子どもなのか、リライトすることによって、何ができるようにしたいのか...をまずはっきりさせ、その目標が達成できるようにリライトしていくということでした。各グループではまず

どういふ子どもを想定するのかを話し合い、実際にパソコンに打ち込みながらリライトしてきました。最後にグループ毎に発表しました。登場人物の気持ちによってセリフの色分けを考えたグループ、セリフだけを書き出したグループ、文節毎に音読譜にして読みやすくしたグループなど、想定した子どもの実態に合わせて様々な工夫がされていて、さすがに現場の先生方だなあと感心しました。光元先生もみなさんの工夫を大いにほめてくださいました。また細かなアドバイスもしてくださり、その中で「漢字については文章の流れの中でルビを振るなどして学習させてあげて欲しい。漢字は生きているんです。」という言葉が印象的でした。

アンケートより

実際にリライト教材を作ってみて、先生の言われていたことがよくわかった。対象の児童の実態、目標に合わせて変えていく部分と残しておかなくてはいけない部分を改めて考えると結構難しかった。

- 今回はリライトの方法がとてもよく分かりました。子どもとのやりとりの中で少しあきらめかけている気持ちがあった中で「いろいろな言葉の世界を豊かに体験させてあげて欲しい」と言われた言葉にはっとしました。学んだことを取り入れていろいろ努力してみようという気持ちになっています。
- リライトのアイデアいっぱいなのに驚きました。子どもを知ること、ねらいを明確にさせること、そこからスタートすることが大切なこともよく分かりました。子どもの困難を取り除く工夫がレベルアップへつなげられるのですが、楽しいことにもつなげられます。
- 実際にリライトをしてみて、いろいろな工夫ができることを実感できました。子どもの実態に応じて色を変えたり主語が分かるようにしたり工夫していてすごいなと思いました。学校でリライトに挑戦してみたいと思います。
- 実際にリライト教材を作成しようと、古典ですがやってみました。説明文をわかりやすくするのはとても難しかったです。今日、みなさんの具体的なアイデアを聞くことができ、もう一度チャレンジしてみようと思います。(古典は読むのを嫌がっていた子がすらすらと読めるようになったのがとても嬉しかったです)

